

Viva Arte No.11

文化研究講座 ～ 11/2 Disney on CLASSIC ～

まほうの夜の音楽会 2010 Miracle ～ 愛が輝く時

文研をより楽しむために、ちょっとした知識やおすすめの曲を学生の視点からわかりやすく紹介します！

今回は、ディズニー映画より『美女と野獣』を紹介します♥

ディズニー・オン・クラシック

“ディズニー・オン・クラシック”は、ディズニーのアニメーション、映画、テーマパークなどで生まれた“音楽”に焦点をあて、日本から発信される企画として誕生したエンターテインメント

ディズニーの珠玉の名曲を、オーケストラとブロードウェイで活躍するヴォーカリストの素敵な演奏にのせてお届けする、大人のための音楽会です。2010年のディズニー・オン・クラシックのテーマは“Miracle ～愛が輝く時”ディズニー・アニメーションの名作中の名作『美女と野獣』をフィーチャーします。

『美女と野獣』

1991年、一本の映画が世界中を魅了しました。

『美女と野獣』は美しい物語をもとにアニメーションと音楽を調和させた傑作です。

画期的な映像表現は観客の琴線に触れ、ゴールデン・グローブ賞3部門のほか数々の荣誉に輝きました。アニメーション史上初のアカデミー賞最優秀作品賞にノミネートされた作品でもあります。

主人公のベルはディズニーの伝統を打ち破るキャラクター。「ベル」というのはフランス語で「美女」という意味。ただ容姿に優れているのではなく、内面も美しく知性もある女性のことです。ただ見た目さえ美しくればよい、「ジョリ」（フランス語でキレイの意）ではないのです。

実際、彼女はその美貌もさることながら、賢く慎ましく忍耐強く、親孝行で読書好き。容姿だけでなく、性格と知性においても優れています。だからこそ「ベル」なのです。



原作との違い

ディズニーの『美女と野獣』の原作となったのは、18世紀に活躍したフランスの童話作家ルブラン・ド・ボーモン夫人の「美女と野獣」です。原作は、ディズニー版とはちょっと違います。

★大きな違い①「野獣の性格」

ディズニー版の野獣は、プライドが高く、言葉使いも乱暴。ドアを荒々しく閉めるし、食事のマナーもありません。まさしく、外見と同じく内面も野獣です。一方、原作の野獣は、謙虚で言葉遣いも丁寧。庭の花を大切にす、心優しい王子。外見とは正反対の性格なんです！

★大きな違い②「成長するのはベル」

ディズニー版では、成長するのは「野獣」です。彼は、「自分のわがままを抑えること」、「相手の意志を尊重すること」、「相手に優しくすること」などの人間らしい心と、人を愛することをベルから学びます。

一方、原作で成長するのは「ベル」です。彼女は初めのうちは、野獣の心の美しさを見ようともしませんでした。さまざまな試練に遭い、外見と内面は必ずしも一致しないことに気づき、野獣を愛するようになるのです。



ディズニーは巧みなストーリーの変更と、原作とは全く異なる人物によって、18世紀の寓話を見事によみがえらされました。まだまだ違いはあるので、気になる人はぜひ原作を読んでみてください。

ディズニー音楽

1989年の『リトル・マーメイド』において、ディズニー・アニメは新時代を迎えました。

そして、その新しさを強くアピールした要素の1つが音楽です。

その「新生ディズニー」を象徴する音楽は、作詞家ハワード・アシュマンと作曲家アラン・メンケンによって作られました。

◇2人の共通点はブロードウェイ・ミュージカル◇

作詞家：ハワード・アシュマン

アシュマンは1950年5月17日、メリーランド州ボルチモアに生まれました。小さい頃から演劇に興味を持ち、地元の子供劇場にも参加していました。その流れでミュージカルにも興味を持ち、ときには家族の前でブロードウェイ・ミュージカルのオリジナル・キャスト・レコードをかけながら、その演目を身振り手振り演じて解説するということもやっていました。周囲は彼の情熱を温かく見守っていました。



作曲家：アラン・メンケン

メンケンは1949年7月22日、ニューヨーク市に生まれました。メンケンの音楽への情熱は、女優だった母親、歯科医の仕事の合間に音楽をたしなむ父親から影響を受けました。両親はとりわけブロードウェイ・ミュージカルを愛好していたそうです。メンケンは、バンドにギターのメンバーとして参加していたこともあり、ロックやR&B、フォーク、民族音楽、ジャズと幅広い音楽に興味を示しました。

やがて2人はタッグを組み、ディズニー映画音楽を手掛けることになりました。『リトル・マーメイド』では、ブロードウェイ・スタイルを取り入れ、ストーリーに密接した曲作りをしました。そして「パート・オブ・ユア・ワールド」や「アンダー・ザ・シー」など数々の名曲が生まれたのです。

◇『美女と野獣』◇

『リトル・マーメイド』に続き、2人が取り組んだのが『美女と野獣』の音楽。『美女と野獣』の中で一番有名な曲は、ベルとビーストが踊るシーンの「Beauty And The Beast」ですよね。他にも「朝の風景」や「ひとりぼっちの晩餐会」、「強いぞ、ガストン」など1つの映画の中にたくさんのオリジナル曲があります。

そして“ミュージカル”という言葉がもっともぴったり当てはまるほど、これまでの作品以上に歌が物語をリードする役割を担っています。

『リトル・マーメイド』や『美女と野獣』の成功にアシュマンとメンケンが大きく貢献したことは間違いのないといえるでしょう。

「Viva Arte No.11」は、現代教養学科ブログにも同じものを掲載しています。

ブログ・アドレス <http://net.swu.ac.jp/gendai-blog/>

ご意見・ご感想、リクエスト等ありましたら、viva_arte_2010@yahoo.co.jp にメールをください！

担当：現代教養学科 Viva Arte 編集部

<参考文献>

ディズニー・オン・クラシック「まほうの夜の音楽会 2010」<http://www.disney.co.jp/onclassic/>（閲覧日：2010/10/25）

谷口昭弘『ディズニー映画音楽徹底分析—これ1冊でディズニー映画音楽のすべてがわかる』（株式会社スタイルノート：2007年）

有馬哲夫『ディズニーの魔法』（株式会社新潮社：2003年）